

# 世界の作り方

ClubJePense 2019年11月

# 世界とは何か

世界と聞いて何を思い浮かべるか？

一般的なイメージで言ってしまうと  
「世界地図」「地球儀」「海外」  
「イッツアasmールワールド的なもの」

少し概念的なものに触れていると  
「自分を取り巻くもののすべて」

こんな感じのイメージが多いのではないか

# 世界とは何か

ザックリ言ってしまうと・・・

現時点で我々が扱う「世界」とは

- ・ 地球儀・地図・国のイメージに近いもの
- ・ 自分を含めた物理的な意味の現象すべて
- ・ 知識・情報・概念としての「全体」

この辺を指していることが多い

# 割とよくある 「世界」と「自分」の位置関係



自分の外に「世界」がある

自分を取り巻く何かの全部が「世界」

大多数が絵にするとコレになる

## ところで質問

あなたは「世界」を見たことがあるか？

一応哲学的観点で注釈を入れると  
この手の問いを高抽象で答えようと思ったら  
概念で見なければダメ

「海外に行ったことがあります」  
「うちのビジネスはグローバル展開しています」  
などの「オレ世界見てるぜ的主張」は低抽象  
概念としての「世界」ではなく  
局地的要素を語っているだけだから  
「ハワイに行ったことがある」  
「ヨーロッパに取引先がある」  
みたいな表現に置き換えられてしまう

よく考えてみて欲しい

**この世に「世界」を見たことがある人は  
正確には1人もいないのだ**

理由：世界という言葉自体「全体」を表している

私、自分という言葉は常に世界の中にしか存在しない  
中にいる、部分でしかない我々は全体を見ることはできない

我々は「世界」という言葉を持ったがゆえに  
永遠に世界を見ることはできないのである

この辺りは

マルクス・ガブリエル

(ドイツ人哲学者、なんとまだ39歳!) 著

「なぜ世界は存在しないのか」

でかなり執拗に語られているので

お時間のある方は読んでみてください



しかし、その「世界」という言葉を作ったのは  
その我々人間ではないのか？

その通り

つまり、世界は

「全体を表している」という概念を持っているだけで

事実上存在しないとも言えるのである

概念のみで事実上物理的に存在しないものなど

この世にいくらでもある

そう、愛とかね（笑）

しかし、我々は常にいるんな意味で  
「世界」の大きさ、強さ、その存在に悩まされる

世界的に見て多い少ないとか  
世界の平均からすると高い低いとか  
世界が狭いとか、その世界のことを知らないとか  
世界は混乱しているとか  
世界観が薄いとか

直接的・間接的に「世界」は我々を矮小化させ  
我々を監視してくるのだ

実体がないくせに全体であり、  
最も大きい単位とされるもので  
我々を取り巻くすべての何かである「世界」

我々は「世界」を超えることはできないのだろうか  
世界に勝つことはできないのだろうか  
世界を見下ろすことはできないのだろうか  
我々は世界よりずっと小さい存在でしかいられないのか

否、哲学の考え方をを用いることで  
これらはすべて可能になる

我々は世界を超えられる  
「世界」に勝てるし「世界」を見下るせる

ていうか「世界」を創造できるし  
「世界」を手に入れることも可能だ

決して自己啓発的でもスピリチュアル的なものでもない

その理由と方法をお話します

まずは「世界」とは何か

その実体を探り、  
イメージや既存の概念を壊そう

# 認識論

哲学の一部門

古くはプラトンの時代からあるもの

先月の講義で少し話してる

「イデア論」はこのひとつとして捉えてヨシ

「世界」を扱うのにココから入ってみよう

# 認識論でよく扱われる「問い」

- ・人はどのようにして物事を正しく知ることができるのか
- ・人はどのようにして物事について誤った考え方を抱くのか
- ・ある考え方が正しいかどうかを確かめる方法があるか
  - ・人間にとって不可知の領域はあるか  
あるとしたら、どのような形で存在するのか

**人はどのようにして物事を正しく知ることができるのか**

構造主義、実存主義、ポスト構造主義など  
あらゆる観点で考えてみてください



**人はどのようにして物事について誤った考え方を抱くのか**

これもまた、あらゆる観点で考えてみてください

**ある考え方が正しいかどうかを確かめる方法があるか**

様々な立場、観点から答えてみましょう

**人間にとって不可知の領域はあるか  
あるとしたら、どのような形で存在するのか**

あなたならどう答えますか？

ちなみに「不可知論」という哲学の理論もあります  
(物事の本質を人間は捉えることは不可能  
だから扱わない、みたいなもの)

# 実は、今出した4つの問いは そのまま「世界」への問いになる

- ・人はどのようにして「世界」を正しく知ることができるのか
- ・人はどのようにして「世界」について誤った考え方を抱くのか
- ・「世界」が正しいかどうかを確かめる方法があるか
  - ・「世界」に不可知の領域はあるか  
あるとしたら、どのような形で存在するのか

おそらく多くが気づくであろう  
「固定点」がないと答えられないということに

「世界」を正確に認識しようとする時  
その前提に圧倒的多数が賛同する「固定点」を  
設けないとそもそも認識が不可能

この世界に「固定点」などないにも関わらず

では、次に  
言語分析的観点から「世界」を見てみよう

そもそも  
「世界」は誰が作ったのか？

言語分析的に言えば紛れもなく

人間である

決して神ではない

言語分析的に言えばね

# ではなぜ「人間」は「世界」を作ったのか？

この言葉は便宜的に「部分」ではない

「全体」を表現したいとか

想定させたい時に使われる

また、その用途が生まれた時がこの言葉が生まれた時

「世界」という言葉を使う時を思えばすぐわかる

対象を取り巻く「全てっぽいもの」

「外っぽいもの、巨大っぽいもの、壮大っぽいもの」

を扱いたい時に出てくるのだ

**ではなぜ、**

**我々は「全体」がなければ都合が悪かったのか？**



**「部分」を定義しないと  
存在の不完全さに耐えられなかったから  
と推測できる**

「あなたは完璧ですか？」

「あなたの生活は何不自由ないでしょうか？」

「あなたは完璧に美しく、完璧に健康ですか？」

「あなたの持っているソレは完全なるものですか？」

そうです、とか言えるのは  
おそらくローランドくらいだろう

自分や自分の関与するものの歪さ、不足、醜さ  
その不完全っぷりに正当性を与えるには  
「これは部分に過ぎない」と言うのが最も妥当  
(人は根源的にルサンチマンなのである)

つまり

**自分以外の大きく壮大な何かがある  
と仮定することで**

**人はアイデンティティを**

**なんとか維持してきたとも言える**

**アイデンティティ維持装置としての「世界」**

**いふなれば人間というものの弱さの象徴という説明も**

認識論的アプローチ、言語分析的アプローチで  
「世界」とはなんだ、ということに関して  
考えてみたが、結局わかることはひとつ

「世界」という言葉の概念は  
絶対的根拠がなく、  
ゆえに論理的に証明もできず  
生まれた背景は「人の弱さ」にあり

**つまり、恐ろしく適当だということだ**

## ■ 結論 ■

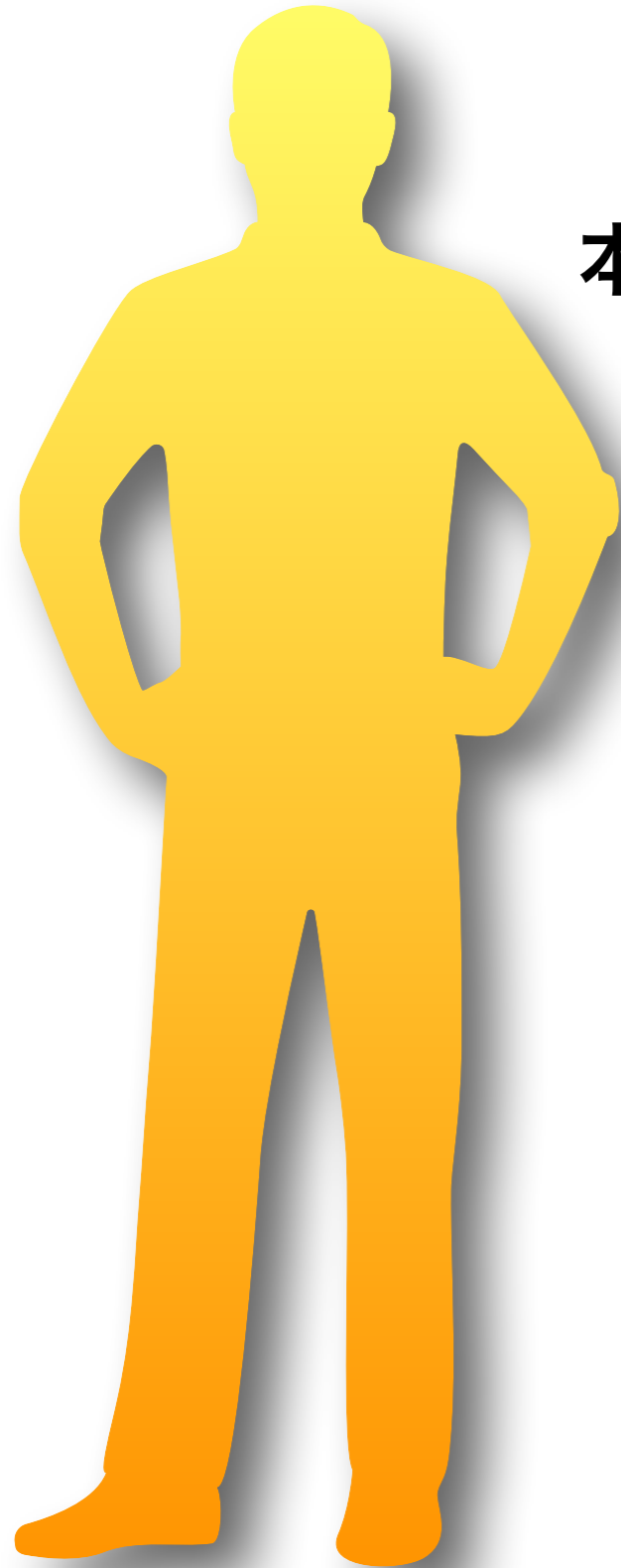
アカデミックなアプローチをすればするほど  
論理的に解説しようとするほど  
恐ろしく適当な「世界」であるからして

# 「世界よ、さらば」

でいいのである  
(ファイヤアーベントのパクリ)

ポール・ファイヤアーベントとは  
アナーキストとして名を轟かせたオーストリアの科学哲学者

# 本来の「世界」と「自分」の 位置関係



本来「世界」は「人間」の言語作品のひとつである  
自らの創作した作品としての「世界」  
という見方を身に着けよう  
作品のひとつでしかないので  
廃棄も放棄もご自由にだ



実際、既存の教育やビジネス、人生など  
そこにある「世界」は  
構造的無意識にこのシステムを通過している

### 構造的無意識「世界」

自分の外に「世界」があるグループ

自分の中に「世界」があるグループ

が自然発生的に分かれていて  
その習性を利用しているのがこの世界

言い換えると

「世界」を作品にするグループと  
作品の中に自分が描かれているグループ

# 構造的無意識世界だと 大体こんな感じになる

A：場の支配者にとって都合のいい「世界」を演出している

「世界」は場の支配者やアーティストたちの作品

→場の支配者の扱いやすい「世界」

世界はセールスの対象

B：自分にとって都合の悪い「世界」と捉えている

「世界」という作品の中に強制的に描かれてしまっている自分

→自分にとって扱いにくい「世界」

世界はセールスしてくる相手

セールス＝人を動かすの意味

**構造的無意識「世界」の【グループ】は  
本質的には、選択は自由である**

**自分の外に「世界」があるグループ  
自分の中に「世界」があるグループ  
が自然発生的に分かれているが  
どちらを選んでもいいのに  
さも選べないような演出をしているのが  
構造の上層部**

**さあ、好きに選べ**



「世界」が崩壊した今

では、あなたが好きに  
「世界」を作っていいと言われたら  
どう定義するか

どう人に伝えるか

どういう形であればあなたやみんなにとって  
素晴らしいもの、都合のいいものになるか  
逆に、悪しきもの、不都合なものになるか

「世界」の概念として何を選択しているのか  
もしくは構造から選択させられているか

能動的に「世界」を扱えば  
都合のいいものに捻じ曲げられやすい

受動的に「世界」を受け入れれば  
構造に負けるため、不都合なものになりやすい

**なぜなら「世界」自体がそういう性質を持つ言葉だから**

**「世界」がそういうものだから、ではない！  
そういう性質を持つ言葉だからだ、混同しないこと**

自己啓発やスピリチュアル方面では  
コレをゆがめて解釈

「だから自分で世界を創っていこう」みたいな  
ポジティブなメッセージとしての扱い方をしがち

**実際は言語の性質として最初から  
人類の脆弱性を孕んでいるため  
解釈の仕方や扱い方に多様性が生まれるというだけ**

「世界」という言葉は一般的に  
人の生きる現実を湾曲させるためにある  
**一種の回避ツール**ということを  
よく理解した上で使おう

# 回避ツールとしての「世界」

あなたの直面する状況が不都合なものだったとする  
それを回避ツールとしての「世界」と呼ぶとして

自分の生み出した作品なのだから好きに描きなおせばいい  
と思うか

私はこの絵の中に描かれてしまったモチーフのひとつだ  
とあきらめるか

ぜひ、自分の人生の主権者として、前者を選択して欲しい  
**世界はノートの中の1ページにある落書きでしかないのだから**



以上、「世界とは何か」でした。